オープンガーデン活動におけるきっかけと期間を視点とした 活動実態からみた継続性

A STUDY OF THE CONTINUITY ON ACTUAL SITUATION OF 'OPEN GARDEN' ACTIVITY FROM OPPORTUNITY AND PERIOD

朴 恵 恩*, 野中勝利**

Hyeeun PARK and Katsutoshi NONAKA

The purpose of this study is to clarify actual situations of "open garden" activity from the perspectives of how participants start and how long they engage in the activity, and to examine the activity's continuity. As a result of questionnaire surveys conducted at 55 "open garden" activity sites, it was revealed that: (1) The longer the period a group of flower enthusiasts is involved in the activity, the more actively they engage in activities for exchange and information gathering as a regular hobby; (2) If the activity is encouraged by administration, the shorter the period of activity, the more administrative support is received to increase the number of visitors and participants as an activity for a limited time; and (3) While cooperative activities between administration and participants are increasing, the role administration plays in the continuation of the activity is becoming increasingly important.

Keywords: *Open Garden, Opportunity of Activity, Period of Activity, Actual Situation, Activity Subject, Continuity*
オープンガーデン, 活動のきっかけ, 活動期間, 活動実態, 活動主体, 継続性

1. はじめに

1990年代後半にガーデニングブームから始まったオープンガーデン活動は、個人の庭を一般の人に見せることである。他の人に庭を見せる庭主の楽しさと、庭を見る訪問者の楽しみから始まるこのオープンガーデン活動は、花を媒介とした交流やコミュニティ形成といった効果をもたらす。さらに、オープンガーデン活動が継続するとまちなみ景観向上という効果にも繋がる。またオープンガーデン活動が地域経済に与える影響に関する研究¹⁾もみられ、個人の趣味から始まるオープンガーデン活動が結果的に様々な効果をもたらすということからオープンガーデン活動は意義があり、その継続が必要である。そして、現在は、花愛好者たちの集まりから始まる場合だけではなく、こういった効果に気づいた行政やNPO、自治会などの組織が支援したり、働きかける場合も多く、その活動の形態が変化・多様化となっている。このような背景で、日本のオープンガーデンが始まって10年以上経った現在、活動の継続性は今日的な課題であるといえる。活動のきっかけや活動期間による、庭の公開期間、また運営資金の確保方法と活動内容における参加者たちの自律性や参加度、活動主体の活動への関わりなどの活動実態は、オープンガーデン活動の継続に関係していると考えられる。

オープンガーデン活動に関する研究は、3ヶ所のオープンガーデン活動の実態をみることで活動の展開と課題を明らかにした研究²⁾のほか、長野県小布施町のオープンガーデン活動におけるその特徴

と課題や観賞者の行動特性を明らかにした研究³⁾⁴⁾、日本におけるオープンガーデンの意義や英国のナショナル・ガーデン・スキーム活動の意義と継続の特色を考察した研究⁵⁾⁶⁾、兵庫県におけるオープンガーデン活動がもたらす意識と行動やその変化を明らかにした研究⁷⁾⁸⁾などがある。ただし、花愛好者や行政、NPO、商工会など多様な主体が活動に取り組んでいるなど、その形態の変化や多様化といった活動のきっかけや10年前から活動を始めた場合と、最近活動を始めた場合などの活動期間という視点から捉えた研究の成果はまだあがっていない。

そこで、本研究ではオープンガーデン活動における、活動主体の花愛好者、行政、NPOや商工会などの組織の活動のきっかけと、活動期間という視点から、公開期間、運営資金の確保方法、活動内容のオープンガーデン活動実態と継続性との関係を明らかにする。

2. 研究方法及び内容

本研究では、全国のオープンガーデン活動を対象としている。まず、①アンケート調査設計のために事前調査としてヒアリング調査^{注1)}を行った。②全国のオープンガーデン活動の集計のため資料調査やインターネット検索を行った。その結果、73ヶ所のオープンガーデン活動が集計できた。③その中で、活動を中止したり、連絡先が不明なところを除き、62ヶ所を対象にアンケート調査^{注2)}を行った。回収率の向上のため、事前に個別に連絡を取り、アンケート票の配

* 筑波大学大学院人間総合科学研究科
博士後期課程・修士(デザイン学)

** 筑波大学大学院人間総合科学研究科 准教授・博士(工学)

Doctoral Program in Comprehensive Human Science, University of Tsukuba

Assoc. Prof., Comprehensive Human Science, University of Tsukuba, Dr. Eng.

表 1 アンケート票の配布と回収

配布と回収		組織がある場合		組織がない場合		回収結果	
代表者のみ	配布	24ヶ所		9ヶ所		33ヶ所	
	回収	20ヶ所(20部)		7ヶ所(7部)		27ヶ所(27部)	
行政担当者のみ	配布	3ヶ所		12ヶ所		15ヶ所	
	回収	3ヶ所(3部)		11ヶ所(11部)		14ヶ所(14部)	
代表者と行政担当者の両方	配布	11ヶ所		3ヶ所		14ヶ所	
		代表者	行政担当者	代表者	行政担当者	代表者	行政担当者
	回収	10ヶ所(10部)	11ヶ所(11部)	3ヶ所(3部)	3ヶ所(3部)	13ヶ所(13部)	14ヶ所(14部)
						14ヶ所(27部)※1	
回収率	参加代表者		40部(27部＋13部)		89.4%、		
	行政担当者		28部(14部＋14部)		55ヶ所(27ヶ所＋14ヶ所)		
	合計		68部				

*組織を設けており、行政の関与がある場合は組織の代表者と行政担当者の両方にアンケート票を配布し、組織を設けていなくてもオープンガーデン活動参加者の連絡先が公開されている場合は、参加者と行政担当者の両方に配布した。また(部)は回収できた部数を示す。※1は、代表者と行政担当者の両方に配布した14ヶ所(28部)のうち、代表者と行政担当者の両方からの回答があった13ヶ所と、行政担当者のみからの回答があったところの1ヶ所の、ヶ所としては14ヶ所であるが、部数は27部となる。

布や回収手法について、先方の意向を聞き、郵送、FAX、電子メールの方法で調査を行った。回収したアンケート調査結果において不明な部分は電話にて確認し、行政と参加者の両方からの回答の場合は両方に確認した。アンケート調査期間は2008年1月から3月にかけて行い、調査対象と回収結果を表したのが表1である。④アンケート調査の補足のためヒアリング調査^{注3)}を行った。アンケート調査内容は以下に示す通りである。

- ① 基本属性：活動の開始時期、活動のきっかけ、公開期間
- ② 運営資金の確保方法
- ③ 活動内容と各活動の主体：公開期間中の来訪者に対する支援、広報活動、参加者たちの情報・知識・交流のための関連活動
- ④ 活動に対する意識：困ること、参加者への期待(行政回答)、行政への期待(参加者回答)、改善意向、活動への期待

なお、組織とは庭公開や関連活動のオープンガーデン活動を行うため結成し、オープンガーデン参加者が役員として運営していることとして捉える。アンケート内容において、活動に対する意識についての内容は行政と参加者の対象によって一部異なる。

3. 活動の開始時期ときっかけからみたオープンガーデン活動の傾向

調査対象である55ヶ所に対する活動の開始時期ときっかけ、公開期間を表したのが図1と図2である。活動は1997年以降から広がりをみせており、通年より公開期間を決め、10日間以内の期間限定の活動として行っているところが多い。また参加者たちの都合によって公開期間を自主的に決めているところ(「庭によって違う」に該当)も11ヶ所である。活動のきっかけからみると、花いっぱい運動の一環として、行政が花愛好者たちへの勧めから始まったところが27ヶ所として一番多い^{注4)}。次に、花愛好者の集まりの趣味から始まったところが18ヶ所であり、花愛好者が趣味と共に募金活動^{注5)}として始めているところが3ヶ所である。また地域のNPOや商工会、自治会、財団法人など活動の一つとして、参加者を募集しオープンガーデンを運営しているところが7ヶ所(「その他」に該当)である。

このようにオープンガーデン活動は、公開期間や活動のきっかけが異なるが、行政の勧めによる期間限定の活動が多い傾向にある。

1) 活動の開始時期と活動のきっかけとの関係

活動の開始時期の総数からみると、活動が少しずつ始まっている1993～1999の初動期、活動が増加している2000～2003の増加期、

図 1 活動の開始時期

*「その他」は地域のNPOや商工会、自治会、財団法人などの活動の一つとして、自ら自主的に参加者を募集し、毎年オープンガーデン活動を行っているところを示す。

図 2 活動のきっかけと公開期間

図 3 活動の開始時期の総数からみた傾向

表 2 活動開始時期と活動のきっかけとの関係

活動のきっかけ	開始時期			合計 (ヶ所、%)
	1993～1999	2000～2003	2004～2007	
行政の勧め	1	9	17	27(49%)
花愛好者の集まり	7	8	3	18(33%)
花愛好者の集まり・募金活動	2	1	—	3(5%)
その他	—	4	3	7(13%)
合計(ヶ所、%)	10(18%)	22(40%)	23(42%)	55(100%)

増加率は低くなっているが活動を始めている場合もあり、日本で活動が始まって10年経過している安定期の2004～2007の3つに分けることができる(図3)。この3つの活動の開始時期と活動のきっかけとの関係をみてみる(表2)。

まず、開始時期が「1993～1999」における活動のきっかけは、行政の勧めによって活動が始まっているところは1ヶ所のみである。募金活動という目的がある場合もあるが、主に花愛好者の集まりとして、趣味が展開した自主的な活動が多い傾向にある。これに対し、開始時期が「2000～2003」の場合、活動のきっかけが多様となり、行政の勧めと、NPO、自治会、財団法人などの活動の一つとして始まったところ(「その他」に該当)の増加が目立つ。さらに、開始時期が「2004～2007」になって、花愛好者の集まりによって始まったところが3ヶ所として若干減少している一方、行政の勧めによる活動

は 17 ケ所として急激に増加している。

このようにオープンガーデン活動は、最初は花愛好者たちの趣味から展開した自主的な活動が多かったが、年を経ると共に行政や NPO、自治会などによって行われているところが急増している。

2) 活動の開始時期と公開期間との関係

まず、公開期間の傾向をみると(表 3)、「10 日間以内」が一番多く、次に、「11 日間以上～1 年間未満」や「庭によって公開期間が違う」ところが多く、「通年公開」しているところは 5 ケ所のみとなっている。また開始当時と現在において公開期間に変化があるところをみると(○、□、△として示している)、開始当時には「11 日間以上～1 年間未満」や「10 日間以内」の、期間を決めて公開していたのが、現在は「庭によって公開期間が違う」ところが 2 ケ所みられる(□：1 ケ所、○：1 ケ所)。また開始時に「11 日間から 1 年間以内」の公開であったのが、現在は「10 日間以内」公開の期間が短くなったところもある(□：1 ケ所、○：1 ケ所)。一方、開始当時「10 日間以内」の公開から、現在は「11 日間以上から 1 年間未満公開」として長くなったところもみられる(□：1 ケ所)。しかし調査対象のほとんどが開始当時との変化はみられない(●、■、▲で示している)。

活動の開始時期と公開期間との関係をみてみる。前述してあるように、現在 26 ケ所の約半数が「10 日間以内」の公開であった(図 2)。表 3 をみると、この「10 日間以内」の場合、開始時期が「1993～1999」の 10 ケ所のうち 1 ケ所(●)、「2000～2003」の 22 ケ所のうち 14 ケ所(■：12 ケ所、□：2 ケ所)、「2004～2007」の 23 ケ所のうち 11 ケ所(▲：10 ケ所、△：1 ケ所)である。開始時期が「1993～1999」の場合、「10 日間以内」は 1 ケ所のみで、「11 日間～1 年間以内」が 5 ケ所(●：4 ケ所、○：1 ケ所)、「通年公開」が 1 ケ所(●：1 ケ所)として、公開期間が長いところが他の開始時期と比べ比較的多く、開始当時との変化がない。このことから定着した日常生活の一部分の活動になっているといえる。一方、他の開始時期の場合は、公開期間が長くなったり、短くなったりなどの変化がみられるところもあるが、比較的小さい期間の決められた公開のイベント的な活動の傾向にあるという違いがみられる。

4. 活動のきっかけと活動期間からみた活動実態

最近活動を始めた場合や長い期間にわたって活動を行っている場合の活動期間の違いによる活動実態をみるため、活動の開始時期が「1993～1999」は活動期間が「9 年間以上」、「2000～2003」の開始時期の場合は活動期間が「5 年間以上～9 年間未満」、開始時期が「2004～2007」の場合は「5 年間未満」として表すこととする。

1) 活動のきっかけ・活動期間と運営資金との関係

本研究の対象の 55 ケ所は、すべてがガイドブックを作成したり、見学会を開催するなど、庭を公開するだけではなく、多様な活動をしているため、運営資金を設けている。そのうち、年間の運営資金として設けていないが、見学会や講習会などを開催する際に参加者たちが会費を集めて使っているところもある。ここでは、この場合も活動を行うための資金として捉える(参加費に含まれる)。

運営資金の確保方法をみると(表 4)、55 ケ所のうち「行政補助」だけで活動を行っているところが 19 ケ所として一番多く、次に「参加費と行政補助」で運営しているところが 10 ケ所として多い。一方、

表 3 活動の開始時期と公開期間との関係

活動の開始時期の公開期間	通年				
	11 日間～1 年間未満		□	□ △	●●●●●■ ▲▲▲▲
	10 日間以内		○	●●●●●■ ▲▲▲▲▲▲ ▲▲▲	□
	庭によって違う		●●●■ ▲▲▲		
公開期間	不明		○ □	□	○ □
	不明	庭によって違う	10 日間以内	11 日間～1 年間以内	通年
現在の公開期間(2007 年基準)					

*開始時期が「1993～1999：10 ケ所」の場合は●、「2000～2003：22 ケ所」の場合は■、「2004～2007：23 ケ所」の場合は▲として表し、各欄の記号の数はケ所数を示す。開始当時と現在において公開期間に変化がある場合は開始時期が「1993～1999」：○、「2000～2003」：□、「2004～2007」：△として示し、開始時期が 2007 の場合、活動の開始当時と現在の公開期間を同様としている。

表 4 活動期間別の活動のきっかけによる運営資金の確保方法

運営資金の確保方法		活動期間			合計(ケ所)
		9 年間以上 (開始時期： 1993～1999)	5 年間～9 年間未満 (開始時期： 2000～2003)	5 年間未満 (開始時期： 2004～2007)	
行政補助無	参加費	●●	● ★	□	5
	参加費、協賛金、活動収益	▲	●●●	● ★	6
	協賛金、活動収益	▲	● ★		3
	計(ケ所)	4	7	3	14
行政補助有	参加費、行政補助	○○	■ ■ ○○○	■ ○○	10
	参加費、行政補助、協賛金、活動収益	○	△ ★	■ ■	5
	行政補助、協賛金、活動収益	○	■ ■ ■ ■		5
	行政補助	■ ○	■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ★	19
	計(ケ所)	6	14	19	39
NPO 事業費			★	★	2
計(ケ所)		0	1	1	2
合計(ケ所)		10	22	23	55

*行政補助とは、資金、事務作業、印刷物提供などの支援のことを意味する。表 2 に示してある活動のきっかけ別に、■：行政の勧め、●：花愛好者の集まり、▲：花愛好者の集まり・募金活動、★：その他として記入し、各欄の記号の数はケ所数を意味する。また運営資金の確保において、行政補助の有無による活動の開始同時との変化がある場合は、□：行政の勧め、花愛好者の集まり、○：花愛好者の集まり・募金活動、△のように示す。

行政補助を受けず、参加費や協賛金、活動収益で運営しているところは 14 ケ所として、調査対象の半数にも満たしていない。多くが行政補助を受けていることがわかる。

(1) 活動期間が「9 年間以上」の運営資金の確保方法

活動期間が「9 年間以上」の 10 ケ所のうち、行政補助無しで参加費や協賛金、活動収益で運営をしているところは 4 ケ所として半数に満たしていない。その他の 6 ケ所は行政補助を受けている。この時期は、最初から行政補助を受けていた「■：行政の勧め」が 1 ケ所のみである。一方、その他の 9 ケ所は「●：花愛好者の集まり」や「▲：花愛好者の集まり・募金活動」の花愛好者たちが自主的に活動を始めた場合である。この 9 ケ所のうち 5 ケ所が現在、行政補助を受けている(○として示している)。このように、最初は花愛好者たちの自主的な活動として始まったのが、活動をしていくなかで行政が支援するようになったところも多い。

(2) 活動期間が「5 年間以上～9 年間未満」の運営資金の確保方法

活動期間が「5 年間以上～9 年間未満」の 22 ケ所のうち、行政の補助を受けずに参加者たちの参加費や協賛金、活動収益で運営しているところは 7 ケ所、NPO 事業費の場合が 1 ケ所である一方、行政補助を受けているところが 14 ケ所として多い。活動のきっかけが

「■：行政の勧め」の9ヶ所の全てと、「●：花愛好者の集まり」の8ヶ所のうち3ヶ所(○として示している)、「▲：花愛好者の集まり・募金活動」の1ヶ所(△として示している)、「★：その他」の1ヶ所が行政補助を受けている。活動していくなかで行政の支援を受けるようになったところもみられるが(○：3ヶ所、△：1ヶ所)、花愛好者の集まりによる活動の場合、行政補助を受けるところが活動期間の「9年間以上」と比べ、比較的少ない傾向にあることがわかる。

(3) 活動期間が「5年間未満」の運営資金の確保方法

活動期間が「5年間未満」の場合、23ヶ所のうち19ヶ所が行政補助を受けている。この活動期間の場合、「■：行政の勧め」が17ヶ所であり、そのうち現在、行政補助があるのは16ヶ所である。また「●：花愛好者の集まり」が3ヶ所であるが、そのうち2ヶ所が現在、行政補助を受けている(○として示している)。この活動期間のオープンガーデン活動は主に行政補助を受けていることがわかる。

2) 活動のきっかけと活動内容との関係

以上のように、活動のきっかけにおいて行政の勧めが多い活動期間であるほど、行政支援が多い傾向にあることがわかる。また花愛好者たちの集まりによるオープンガーデン活動の場合、行政の補助を受けず、参加者たちが運営資金を確保するなど、自律的に活動を継続しているところと、行政が資金や事務作業などを支援し、行政と住民と一緒に活動を行うようになったところの2つに分けられた。

このように行政の支援を受けているところが多い傾向にある中で、行政はどのような支援をしているのか、また参加者たちは庭公開以外に、どのような活動を自主的に行っているのかをみてみる。

まず全体的な傾向をみると(図4)、調査対象の55ヶ所のうち45ヶ所以上が道案内や庭を紹介する「ガイドブック作成」や庭公開の情報のための「ホームページ作成」をしており、来訪者のための支援やオープンガーデン活動の宣伝を積極的に行っている。また来訪者のための支援として「案内板配置」をしているところも多いが、「見学会開催」「親睦会」「講習会開催」「他地域との交流」など、参加者たちの情報・知識・交流のための関連活動を行っているところが多い。多くが、庭公開だけではなく、来訪者への支援や宣伝活動と共に多様な関連活動を行っていることがわかる。

(1) 行政の勧めによる活動内容：27ヶ所

活動のきっかけが行政の勧めの場合、「バス用意」「案内板配置」「ガイドブック作成」などの来訪者への支援と、「ホームページ作成」や「公報掲載」の広報活動は、主な活動主体が「行政：□」が多い(表5)。一方、参加者たちの情報・知識・交流のための関連活動は、「行政と参加者：△」が協同で行っているところが多い傾向にある。つまり来訪者や参加者を拡大するための資金を必要とする「バス用意」「案内板配置」「ガイドブック作成」や「ホームページ作成」「公報掲載」などの活動は行政が主に活動を行っているといえる。これらの活動の比率からみると、「バス用意」が44%であるが、これ以外の活動は70%以上として他活動の比率と比べ、比較的、高い比率を表しており、行政の積極的な支援があることがわかる。表6に示してあるように、このような行政の支援は、まず「バス用意」について、オープンガーデン活動を事業の一つとして、また来訪者の利便性向上のためである例がみられる。また行政がガイドブックを作成、販

売してその収益を運営資金として充当する場合もみられる。このような行政の補助がある一方、「ホームページ作成」において、会員のホームページを一緒に使ったり、「案内人配置」において、来訪者を迎えに行くなど、参加者たちの積極性もみられる。

一方、参加者たちの情報・知識・交流のための関連活動において、「見学会開催」や「親睦会」以外の活動は、比率が高いとはいえない(表5)。また関連活動に対する主な活動主体をみると、「行政と参加者：△」が一番多く、次に「参加者：○」が多い。公開期間中の来訪者に対する支援や広報活動に比べ、参加者たちの関連活動への参加が高いことがわかる。表6に示してあるように、見学会の参加希望者が参加費を出したり、企画をし、行政が参加するようにしたり、コンサートを参加者たちが行ったり、定期的に参加者同士の集まりを設けたり、オープンガーデン参加者が増えることを期待している。このように、最初、行政の勧めによってオープンガーデン活動を始めた場合でも、参加者たちの情報・知識・交流のための関連活動に対する参加者たちの積極的な参加がみられる。

(2) 「花愛好者の集まり」の活動内容：18ヶ所

活動のきっかけが「花愛好者の集まり」の場合、来訪者への支援の「ガイドブック作成」と広報活動の「ホームページ作成」、また関連活動の「講習会開催」「見学会開催」「親睦会」「他地域との交流」の比率が70%以上として高い。これらの主な活動主体は「参加者：○」であり、花愛好者たちが趣味の展開として自律的に多様な活動を行っていることがわかる。表6に示してあるように、ガイドブックを販売したり、まつりに参加し花を販売するなど、運営資金を確保したり、会員のホームページを一緒に使うなどの工夫や、専門家のみならず会員による講習会開催、独自のフリーマーケットの開催などの運営手法で自律的に活動を行っている。

一方、表4で活動のきっかけが「花愛好者の集まり」の場合でも、現在10ヶ所の半数以上が行政の補助を受けていることがわかった。表5の主な活動主体からわかるように、「行政：□」の場合が「ガイドブック作成」が6ヶ所と「公報掲載」が5ヶ所、「行政と参加者：△」の場合が「緑化活動」が5ヶ所と「親睦会」が4ヶ所である。行政は補助として、来訪者のための支援としてのガイドブック作成、公報掲載などの宣伝活動、また緑化活動や参加者たちの親睦会の支援をしていることがわかる。具体的な例として、表6の「会員にならなくても、住民が参加できるようにガイドブックを作成」「行政からの依頼で緑化活動を行っており、肥料を提供してくれる」「会議室を無料で使っている」が挙げられる。この他に、「2005年から業者や行政がバスを用意」「行政が案内板を提供」などの来訪者のための支援もみられる。これらは、最初は花愛好者同士でオープンガーデン活動を始めたが、行政が来訪者や参加者を増やすため、支援するようになったことを反映している。

(3) 「花愛好者の集まり・募金活動」の活動内容：3ヶ所

活動のきっかけが「花愛好者の集まり・募金活動」の場合、「案内板配置」の主な活動主体が「行政と参加者：△」であるところが1ヶ所あるが、これ以外の活動において、「参加者：○」が主な活動主体となっている(表5)。また「案内人配置」や「公報掲載」「緑化活動」以外の活動において、3ヶ所のうち2ヶ所が活動を行っており、

*活動内容の各項目に対し複数回答であり、調査対象の55ヶ所における活動のきっかけ別(行政の勧め:27ヶ所、花愛好者の集まり:18ヶ所、花愛好者の集まり・募金活動:3ヶ所、その他(NPO、商工会、自治会、緑のまちづくりを行っている財団法人などの事業としての活動):7ヶ所)に各活動内容を行っている該当ヶ所数を示している。

図4 活動のきっかけと活動内容との関係

表5 活動のきっかけ別の活動内容の傾向と主な主体

活動内容 活動の きっかけ		公開期間中の来訪者に対する支援					広報活動		参加者たちの情報・知識・交流のための関連活動					
		バス 用意	駐車場 提供	案内板 配置	案内人 配置	ガイドブ ック作成	ホームペ ージ作成	公報 掲載	講習会 開催	見学会 開催	緑化 活動	まつり・ イベント	親睦会	他地域 と交流
活動 の 傾向 と 主な 主体	行政の勧め	44% (□:6 △:4)	41% (○:7 □:2)	74% (□:10 ○:7)	22% (○:3 □、☆:1)	89% (□:15 △:6)	78% (□:17 △、☆:2)	70% (□:18 ☆:1)	44% (△:6 □:4)	74% (△:8 ○:7)	41% (△:9 ○:1)	56% (△:10 ○:3)	67% (△:10 ○:7)	59% (○、△:7 □:2)
	花愛好者の 集まり	22% (□:2 ○:1)	44% (○:7 △:1)	56% (○:5 △:3)	22% (○:3 ☆:1)	83% (○:7 □:6)	89% (○:12 □、☆:2)	44% (□:5 ○:3)	89% (○:13 △:3)	72% (○:11 △:2)	44% (△:5 ○:3)	50% (○:6 △:2)	83% (○:11 △:4)	72% (○:11 △:2)
	花愛好者の 集まり・ 募金活動	67% (○:2)	67% (○:2)	67% (○、 △:1)	33% (○:1)	100% (○:3)	100% (○:3)	33% (○:1)	100% (○:3)	100% (○:3)	33% (○:1)	100% (○:3)	67% (○:2)	67% (○:2)
	その他	14% (□:1)	29% (□、 ○:1)	86% (○、 ☆:3)	29% (○、☆ :1)	71% (☆:3 ○+☆:2)	71% (☆:4 ○:1)	57% (□、 ☆:2)	71% (☆:3 ○、△:1)	71% (☆:3 ○+☆:2)	29% (☆:2)	43% (☆:2、☆+ ○+□:1)	86% (☆:4 ○:2)	43% (☆:2 ○:1)

*活動内容の各項目に対し複数回答であり、数字は各活動のきっかけ別のヶ所数(行政の勧め:27ヶ所、花愛好者の集まり:18ヶ所、花愛好者の集まり・募金活動:3ヶ所、その他:7ヶ所)に対する各活動内容を行っている該当ヶ所数の割合を示している。また各活動内容に対し、主な活動主体が「行政の場合:□」、「参加者の場合:○」、「行政と参加者の場合:△」、「その他(NPO、商工会、自治会、緑のまちづくりを行っている財団法人などの組織の場合:☆)として、順位が2位までを示しており、数字はヶ所数を意味する。

表6 活動のきっかけ別の活動内容に対する参加者や行政からの回答

活動内容		活動のきっかけ	内容
公開期間中の来訪者に対する支援	バス用意	行政の勧め	□ イベントの一環として、バスを用意している。 □ 来訪者は年寄りが多いため、バスを用意している。
		花愛好者の集まり	● 2005年から業者や行政がバスを用意し、庭巡りを企画している。
	案内板配置	花愛好者の集まり	○ 来訪者がわかりやすくするため、看板を提供している。 ● 行政支援があつてから、案内板を提供してくれてそれを使っている。
		行政の勧め	■ 来訪者を迎えに行く。 ■ 参加者を配置し、案内するようにしている。
	案内人配置	花愛好者の集まり	● 観光ボランティアがしてくれる。
		行政の勧め	■ ガイドブックを販売し、その収益を運営資金として充当している。 □ 事業の一つとして活動を行っているため、ガイドブックを行政が作成している。
		花愛好者の集まり	● ガイドブックを販売し、その収益で運営資金として充当している。 ○ 会員にならなくても、地域住民が気軽に参加できるようにガイドブックを作成している。
	ガイドブック作成	その他	★ 行政と協同で行っている活動であるため、行政が資金を提供し、NPO が作成している。 ★ NPO の他活動の収益や会費などの予算で作成している。
		行政の勧め	■ 会員のホームページを一緒に使っている。 □ ホームページで参加者を募集したり、宣伝している。
	ホームページ作成	花愛好者の集まり	● 会員のホームページを一緒に使っている。
情報・知識・交流のための関連活動	講習会開催	行政の勧め	□ バスでの庭巡りと共にバスの中で講習会を行っている。 ■ 講師を呼んで、講習会を行い、謝礼は運営費から使用している。
		花愛好者の集まり	● 会員や専門家を呼んで、講習会を行っている。 ● 会員のうち、各分野で得意な人に頼んで講習会を行う。
	見学会開催	行政の勧め	■ 企画から全て行政がしてくれる。 ■ 参加者たちが企画し、行政は参加するようにしている。
		その他	★ 行政に申請書を出し、行政の資金補助で見学会を行ったことがある。 ■ 行政が市のバスを貸し出ししてくれる。
	緑化活動	行政の勧め	■ 行政に頼み、公園を管理している。 ■ 行政の依頼で公園を管理している。
		花愛好者の集まり	● 地権者に依頼し、空き地を管理している。 ● 行政から公園管理の依頼を受けており、肥料を提供してくれる。
	まつり・イベント	行政の勧め	■ コンサートを行っている。 □ コンクールと一緒にやっている。
		花愛好者の集まり	● クラブ内でフリーマーケットなどを行っている。 ● まつりで花を販売し、その収益を運営資金として使っている。
	親睦会	行政の勧め	■ 手作り料理持込の親睦会を毎年行っている。 ■ 新年会や忘年会など参加者たちの集まりを設けている。
		花愛好者の集まり	○ 庭公開だけでは、継続できないので、参加者同士の交流機会を提供している。 ● 月に1回親睦会をしており、参加者の庭で行っている。 ● 会議室を無料で使っている。
	他地域との交流	行政の勧め	■ オープンガーデン参加者が増え、花愛好者の人が増えたらいいと思う。
		花愛好者の集まり	● 花を通じて、人とコミュニケーションを取りたい。 ● 花による交流活動の活性化を期待している。
		その他	★ 他オープンガーデン組織と定期的な交流のため地域で開催されるフォーラムに毎年参加しており、そのフォーラムを主催したことがある。

*アンケート調査からの自由回答と電話や対面のヒアリング調査の結果であり、活動主体が行政の場合:■(回答者が参加者)、□(回答者が行政)とし、活動主体が参加者の場合:●(回答者が参加者)、○(回答者が行政)、活動主体がその他の場合:★(活動組織)のように示す。また講習会とは、外部の専門家やオープンガーデン参加者を講師とし、庭管理の情報や知識を習得するための園芸教室のオープンガーデン参加者たちの勉強会のこと意味する。ただ、講習会への参加対象がオープンガーデン参加者のみである場合と、地域の花愛好者も対象となる場合の、対象は地域によって違う。またバスの庭巡りツアーと一緒に講習会として、専門家による来訪者を対象としたイベントの一つとしての講習会の場合もあるが、調査対象の55ヶ所のうちこの形態の講習会を行っているところは2ヶ所のみである。見学会とは、オープンガーデン参加者たちが他地域でオープンガーデンを行っているところを視察することを意味し、参加者同士間の庭訪問や庭巡りは含まれていない。

*活動期間が9年間以上(開始時期が1993～1999): 10ヶ所、5年間以上～9年間未満(開始時期が2000～2003): 22ヶ所、5年間未満(開始時期が2004～2007): 23ヶ所の各活動期間別のヶ所数に対する各活動内容を行っているヶ所数の割合をグラフとして表したものである。

図5 活動期間と活動内容との関係

表7 活動期間別の活動内容に対する参加者や行政からの回答

活動内容	活動期間	内容
ガイドブック作成	9年間以上	●現在は行政が作っているが、記念で、会員同士で作る予定である。
まつり・イベント	9年間以上	●2004年から市のまつりに参加し、花を販売し、運営資金として使っている。●クラブでフリーマーケットなどを行っている。
	5年間以上～9年間未満	■行政の依頼でまつりに参加している。□市のイベントとして行っているため、単体では考えていない。
	9年間未満	■まつりの時に花を販売し、運営資金として使っている。
親睦会	9年間以上	●10年間続けてきて、本当に花好きの人が集まった。
	5年間未満	■3年たったが、参加者たちで自主的に集まりを設けるようになった。■行政が参加者同士の交流会を提供してほしい。

*アンケート調査からの自由回答と電話や対面のヒアリング調査の結果であり、活動主体が行政の場合: ■(回答者が参加者)、□(回答者が行政)とし、活動主体が参加者の場合: ●(回答者が参加者)、○(回答者が行政)のように示す。

参加者たちが積極的、自律的に活動を行っているといえる。特に、「バス用意」の主な活動主体が「参加者: ○」であり、他の活動のきっかけとの違いをみせている。

(4) 「その他」の活動内容: 7ヶ所

活動のきっかけが「その他(NPO、商工会、自治会、財団法人などの活動の一つ)」の場合、「案内板配置」「ガイドブック作成」の来訪者への支援、「ホームページ作成」の広報活動、「講習会開催」「見学会開催」「親睦会」の参加者たちの情報・知識・交流のための関連活動など、多様な活動を行っている(表5)。主な活動主体からみると、「バス用意」や「公報掲載」「講習会開催」における行政補助がみられるが、少ない。表4で、行政補助がある場合は7ヶ所のうち2ヶ所として少ないことを反映している。一方、ほとんどの活動において、オープンガーデン活動の活動主体である「組織(その他): ☆」が主な主体となっているが、参加者たちの庭公開以外の活動への参加もみられる(「参加者: ○」に該当)。このように、地域の自治会やNPOなどによるオープンガーデン活動も、他の活動のきっかけと同様に庭公開以外の多様な活動を行っており、参加者たちもこれらの活動に参加している場合もあることがわかる。

3) 活動期間と活動内容との関係

全体的な傾向は、活動期間が「9年間以上」「5年間以上～9年間未満」「5年間未満」の順に活動を行っている比率が高い傾向にあるが活動期間の違いによって、少し違いがみられる(図5、表7)。

(1) 「9年間以上」の活動内容: 10ヶ所

活動期間が「9年間以上」の場合、全てが「ガイドブック作成」や「ホームページ作成」をしており、「案内板配置」や「講習会開催」「見学会開催」を80%、また「親睦会」や「他地域の参加者との交

流」を約70%が行っている(図5)。「ガイドブック作成」は道案内や駐車場の情報など、公開期間中の来訪者への支援としてみるができる。しかし表7に示してあるように、「現在は行政が作成されているが、記念で、会員同士でガイドブックを作る予定である」という回答がある。これは、「ガイドブック作成」が来訪者のための支援だけではなく、参加者たちの趣味の一つとして活動を記念に残したいという活動への愛着をみせる例である。また「10年間続けてきて、本当に花好きの人が集まった」の回答も、好きで、楽しいから活動を継続するという活動への愛着をみせる例であるといえる。

一方、図4で全体的な傾向として、「緑化活動」の比率が50%にも満たしていなかったが、ここでは約60%として、空き地や公園管理などの緑化活動を行っているところが他の活動期間より若干多い。しかし図4で比率が高かった「公報掲載」が、ここでは40%として低い比率を表している。また比率が高いとはいえないが「まつり・イベント」に関して、表7のようにオープンガーデン参加者たちが市のまつりに参加したり、オープンガーデン活動の組織が独自にイベントを行うなど、積極的に活動している例がみられる。

(2) 「5年間以上～9年間未満」の活動内容: 22ヶ所

活動期間が「5年間以上～9年間未満」の場合、「ガイドブック作成」「ホームページ作成」「親睦会」が80%以上、「案内板作成」が約80%として、比率が高い。また図4で、55ヶ所のうち30ヶ所として約半数であった「まつり・イベント」が、ここでは70%として高い比率を表している。まつりやイベントへの参加は表7に示してあるように、行政の依頼で地域のまつりに参加したり、オープンガーデン活動を市のイベントとして行っている場合がみられる。そしてその収益を運営資金として充当している。また「見学会開催」や「他地域の参加者との交流」が約70%、「講習会開催」が60%以上として、

表 8 参加者と行政の活動に対する課題

困ること								
参加者 回答	活動期間 \ 設問	駐車場の確保	交流や活動の際人が集まらない	参加者が増えない	来訪者へのマナーが悪い	運営資金が足りない	広報活動の方法がわからない	事務運営が難しい
	9年間以上	4(40%)	1(10%)	4(40%)	2(20%)	2(20%)	0	1(19%)
	5年間以上～9年間未満	7(41%)	5(29%)	8(47%)	5(29%)	6(35%)	0	4(24%)
	5年間未満	7(54%)	0	3(23%)	1(8%)	6(46%)	1(8%)	1(8%)
行政 回答	活動期間 \ 設問	駐車場の確保	交流や活動の際人が集まらない	参加者が増えない	来訪者へのマナーが悪い	運営資金が足りない	広報活動の方法がわからない	事務運営が難しい
	9年間以上	1(50%)	1(50%)	1(50%)	1(50%)	0	0	0
	5年間以上～9年間未満	4(44%)	2(22%)	6(67%)	4(44%)	4(44%)	0	1(11%)
	5年間未満	7(41%)	2(12%)	9(53%)	3(18%)	0	0	1(6%)
行政・参加者への期待								
参加者 回答	活動期間 \ 設問	来訪者のための支援をしてほしい	見学会や講習会開催を増やしてほしい	事務運営の担当してほしい	交流の機会を提供してほしい	謝礼をしてほしい	活動の宣伝をしてほしい	今のままで充分
	9年間以上	0	0	1(10%)	0	0	2(20%)	7(70%)
	5年間以上～9年間未満	6(35%)	1(6%)	2(12%)	5(29%)	1(6%)	5(29%)	7(41%)
	5年間未満	6(46%)	1(8%)	2(15%)	0	0	5(38%)	1(8%)
行政 回答	活動期間 \ 設問	来訪者のための支援をしてほしい	見学会や講習会開催を増やしてほしい	事務運営の担当してほしい	組織を設け、活発に活動してほしい	交流の機会を参加者がしてほしい	今のままで充分	
	9年間以上	0	0	0	0	1(50%)	0	
	5年間以上～9年間未満	1(11%)	1(11%)	2(22%)	3(33%)	4(44%)	2(22%)	
	5年間未満	3(18%)	4(24%)	5(29%)	6(35%)	7(41%)	3(18%)	
改善意向								
参加者 回答	活動期間 \ 設問	来訪者のための支援をしより多くの人に来てもらいたい	参加者たちの交流の機会を増やしたい	事務運営をうまく行いたい	参加者の募集を活発に行い、より多くの人に参加してほしい	活動に必要な資金の援助してもらいたい	広報活動を活発に行い、オープンガーデンを知ってもらいたい	
	9年間以上	0	3(30%)	1(10%)	2(20%)	1(10%)	3(30%)	
	5年間以上～9年間未満	7(41%)	5(29%)	3(18%)	12(71%)	10(59%)	8(47%)	
	5年間未満	3(23%)	5(38%)	1(8%)	4(31%)	2(15%)	4(31%)	
行政 回答	活動期間 \ 設問	来訪者のための支援をしより多くの人に来てもらいたい	参加者たちの交流の機会を増やしたい	事務運営をうまく行いたい	参加者の募集を活発に行い、より多くの人に参加してほしい	活動に必要な資金の援助してもらいたい	参加者たちが積極的なに参加してほしい	
	9年間以上	0	0	1(50%)	0	1(50%)	1(50%)	
	5年間以上～9年間未満	1(11%)	3(33%)	1(11%)	5(55%)	3(33%)	2(22%)	
	5年間未満	4(24%)	10(77%)	1(6%)	10(77%)	5(29%)	5(29%)	
活動への期待								
参加者 回答	活動期間 \ 設問	自分たちで満足すればよい	花仲間が増えてほしい	まちなみ景観がよく なっているほしい	参加者の地域への関心が高 まってほしい	地域内外の団体や人と交 流が活発になってほしい		
	9年間以上	3(30%)	3(30%)	6(60%)	2(20%)	5(50%)		
	5年間以上～9年間未満	2(12%)	10(59%)	12(71%)	9(53%)	12(71%)		
	5年間未満	2(15%)	0	11(85%)	6(46%)	5(38%)		
行政 回答	活動期間 \ 設問	地域PRができればよい	まちなみ景観がよく なっているほしい	参加者の地域への関 心が高まってほしい	地域内外の団体や人と交流が 活発になってほしい			
	9年間以上	0	0	0	2(100%)			
	5年間以上～9年間未満	7(78%)	6(67%)	6(67%)	9(100%)			
	5年間未満	5(29%)	12(71%)	8(47%)	9(53%)			

*各項目に対し複数回答であり、各活動期間別の参加者や行政からの回答ヶ所数(活動期間が9年間以上(10ヶ所)：参加者回答が10ヶ所、行政回答が2ヶ所、活動期間が5年間以上～9年間未満(22ヶ所)：参加者回答が17ヶ所、行政回答が9ヶ所、活動期間が5年間未満(23ヶ所)：参加者回答が13ヶ所、行政回答が17ヶ所)に対する各項目回答のヶ所数の割合を表している。

参加者たちの情報・知識・交流のための関連活動を積極的に行っていることがわかる。

(3) 「5年間未満」の活動内容：23ヶ所

活動期間が「5年間未満」の場合、「ガイドブック作成」や「見学会開催」をしているところが80%として一番多く、「ホームページ作成」「公報掲載」「講習会開催」「親睦会」が70%以上である。表7で、「行政が参加者同士の交流会を提供してほしい」「3年経ったが、参加者たちで自主的に集まりを設けるようになった」という参加者からの回答がみられる。表2でわかるように、この活動期間における活動のきっかけが行政の勧めが圧倒的に多いなかで、これらの回答は行政への依存と参加者たちの自主性をみせている例である。また図4で比較的、比率が高かったが、他の活動期間においてその比率があまり高くなかった「公報掲載」が、この活動期間では70%として比率が高い。「公報掲載」は行政の勧めによる活動で多く行われているという活動のきっかけとの関係を反映している。一方、図4で比率が高かく、他の活動期間でも比率が高かった「案内板配置」「他地域の参加者との交流」の比率は60%に満たしていない。

5. オープンガーデン活動に対する課題

以上のように、活動のきっかけと期間の視点から運営資金の確保

方法や活動内容の活動実態を分析してが、オープンガーデン活動を行っている参加者や行政は活動に対してどのような意識を持っているのかを活動期間という視点からみしてみる(表8)。

(1) 活動をする際の困ること

参加者の回答からは「駐車場の確保」や「参加者が増えない」が比較的、高い比率を表している。一方、活動期間が「5年間未満」の場合、「参加者が増えない」より「運営資金が足りない」との回答の比率が高く、活動期間の違いによる意識の違いもみられる。行政からの回答でも活動期間に関係なく、「駐車場の確保」と「参加者が増えない」の比率が高く、参加者との意識の違いはみられない。

(2) 参加者や行政への期待

参加者の行政に対する期待をみると、活動期間が「9年間以上」の場合、「今のままで充分」が70%として圧倒的に多い。また活動期間が「5年間以上～9年間未満」においても「今のままで充分」が41%として一番高い比率を表している。一方、活動期間が「5年間未満」においては、「今のままで充分」が8%に対し、「来訪者のための支援」が46%として一番高い比率を表している。「来訪者のための支援」は活動期間が「5年間以上～9年間未満」においても、35%となっており、最近活動を始めたところであるほど、行政に対し来訪者

のための支援を期待している傾向にあることがわかる。一方、行政の参加者への期待は、活動の期間と関係なく、「交流の機会を参加者がしてほしい」の比率が一番高い。また最近オープンガーデン活動を始めたところにおいて、「組織を設け、活発に活動をしてほしい」と期待している場合も多い。このように、活動期間の違い、また参加者と行政の立場の違いによって、意識の違いがみられる。

(3) 改善意向

改善意向に関する参加者からの回答をみると、活動期間と関係なく、「参加者の募集活動を活発に行い、より多くの人が参加してほしい」と「広報活動を活発に行い、オープンガーデン活動を知ってもらいたい」との回答が多い。特に、活動期間が「5年間以上～9年間未満」の場合、「参加者の募集を活発に行い、より多くの人が参加してほしい」が70%として圧倒的に比率が高く、参加者の拡大に対する意識が高い。またこの活動期間では、「活動に必要な資金を援助してもらいたい」が59%として高い比率を表している。行政の場合、最近活動を始めたところであるほど「参加者の募集を活発に行い、より多くの人が参加してほしい」との回答が多く、参加者と同じ意識を持っている。また「参加者たちの交流の機会を増やしたい」に関する意識も高い。前述してあるように、行政の参加者への期待として、「参加者の交流の機会を参加者がほしい」の比率が高かった。このことから、行政はオープンガーデン活動を行うにあたって、参加者たちの交流が必要であり、このような活動を参加者たちが自主的に行うことを期待していると推測できる。

このように、活動期間の違いによる大きな意識の違いはみられないが、行政と参加者においては意識の違いがみられる。

(4) 活動への期待

活動への期待として、参加者たちは「まちなみ景観向上」、次に「地域内外の団体や人との交流」、また「参加者の地域への関心が高まってほしい」を期待している。一方、行政は「地域内外の団体や人との交流」、次に「まちなみ景観向上」の回答の比率が高い。また「参加者の地域への関心度の向上」を期待しているところも多い。このように、参加者や行政の両方において、オープンガーデン活動を行うことによって、交流の広がりやまちなみ景観向上、また地域への関心度向上を期待している場合が多いことがわかる。

6. 活動のきっかけと活動期間からみた継続性

活動のきっかけと活動期間という視点から明らかになったオープンガーデン活動の実態と継続性との関係をみてみる。

まず、活動のきっかけが花愛好者の集まりの場合、公開期間はもちろん、活動期間も長いく、庭公開だけではなく、参加者たちの情報・知識・交流のための関連活動を活発に行っている傾向にある。オープンガーデンが日常生活の一部分の趣味として、専門家ではなくてもいつでも気軽にできる参加者による講習会や、参加者の庭での親睦会、また見学会による他地域のオープンガーデン参加者と交流など、積極的に活動を行っている。これは、花愛好者たちが自主的に楽しく、莫大な資金を必要としない、小規模でいつでも気軽にできる方法の、長い期間にわたって活動してきたノウハウであり、活動の継続に繋がる要因であると考えられる。

また前述してあるように、最初は花愛好者の集まりによって活動を始めた場合でも、活動をしていく中で、行政の補助がある場合があった。表9に示してあるように、オープンガーデン活動の認知度の向上によって、行政が参加者を増やすため政策の一部として補助するようになったり、活動の運営をしやすくするため、バス用意やガイドブック作成などの補助をしている。参加者たちは、行政の補助に対し肯定的であるが、これまでの自律的な活動を維持、また制約のないオープンガーデンを維持しようとする意識がみられる。

このように、いつでもだれでも気軽に参加できる運営方法や花愛好者の活動への愛着と意欲が活動の継続の要因といえるが、これに対し行政は、過剰な宣伝や地域の観光のために活動を拡大するより、今までの活動が継続できるような支援が必要である。必要に応じて、会議や講習会ができる場所提供や見学会のためのバス提供など、場所や距離に制限のない自由な活動ができるような支援が考えられる。

行政の勧めによる活動は、最近急増しつつあるため活動期間が短く、事業の一環として行っているため公開期間も短い場合が多い。行政は来訪者や参加者を増すための補助をしており、参加者たちはこれらの補助の継続を期待している一方で、見学会や講習会の企画の協力をしたり、自主的に親睦会や見学会を通じた参加者同士の集まりの機会を設けたりしている。これは、最初、行政の勧めによって始まったとしても、参加者たちが義務的ではなく、楽しく活動に参加していることをみせている。こういった楽しく、自主的に活動に参加するようになった参加者たちのオープンガーデンへの意欲向上は、これからオープンガーデン活動の継続に繋がるといえる。

但し、行政の政策変化などによって、補助がなくなる可能性を考えると、活動の継続のためには、参加者たちの活動に対する自律性が必要となる。そのためには、行政の支援対策と共に参加者たちの意欲向上が必要である。そのため、行政は、活動期間が短い場合、まず参加者や来訪者を増やすための宣伝活動や来訪者のための支援が必要である。また参加者同士の親睦を図るための集まりの機会提供や近所のオープンガーデンの見学のための支援により、参加者たちに活動への意欲や興味をもたせる。そして、活動期間が長くなり、宣伝効果によってオープンガーデン活動がある程度定着すると、参加者たちが簡単にできるようなガイドマップの作成方法などの教育

表9 「花愛好者の集まり」における行政の補助

オープンガーデン	補助の経緯	補助に対する参加者の意識
オープンガーデン 浜松 (開始時期: 1997 年 行政の補助: 2006 年から)	地域のイベントにオープンガーデン参加者がボランティアとして活動したことがきっかけで、オープンガーデンの認知度が高まった。そして、行政が活動を地域全体に広げるため、ガイドブック作成やフォーラムを開催などの補助をしている。	行政が補助しているので、運営しやすいが、行政の補助がなくなる可能性が大きいので、組織として自律化できる体制を取っている。
伊豆ガーデニング クラブ (開始時期: 1998 年 行政の補助: 2002 年から)	オープンガーデンが地域の観光活性化に影響があることが認められ、ガイドブック作成において、印刷の補助をしている。	行政の印刷機を使っているため、ガイドブック作成において、以前より便利になったが、今まで自律的に活動をしていきたし、自分たちが好きでやっているの、今更行政の補助は必要ない。
おうしゅう オープンガーデン (開始時期: 1993 年 行政の補助 2007 年 から)	花愛好者の庭公開のみのオープンガーデンであったのを、2007 年から市長のマニフェストの「オープンガーデンまちづくり計画」に基づいて、行政がガイドブック作成、バス提供によるバスツアー企画などの補助が始まった。	庭は個人の自由な創造の場であるため、それを障害するような制約のある補助ではなく、個人ではできない広報やガイドブックのための補助金、他団体との事務手続きなどの補助が必要である。

*行政の補助を受けるようになった5ヶ所のうち3ヶ所に対するヒアリング調査やアンケート調査の自由回答の結果を表したものである。

また NPO や商工会、財団法人の活動の一つとしてのオープンガーデンは、活動の期間は長いとはいえない。行政の補助で活動を行っている場合もあるが、組織の活動として自律的に行っている場合もある。行政と参加者との中間立場として、運営資金の確保方法において、行政から資金補助が得やすい、また他活動の収益から充当できるという良さがある。また他の活動のきっかけと同様に、参加者たちは庭公開以外の活動に参加している。このように、NPO や商工会、財団法人などの活動の一つとして行われている場合、運営資金の確保方法における良さと、参加者たちの活動への自主的な参加はオープンガーデンの活動の継続に繋がる可能性があると考えられる。

本研究では、55ヶ所のオープンガーデン活動を対象に、活動のきっかけと期間から活動実態と継続性との関係を明らかにした。その結果、以下のことがわかった(図6)。

活動の期間・きつかけ	<div> <div>長い</div> <div>花愛好者たちの集まり</div> <div>短い</div> <div>行政の勧め</div> </div>										
公開期間	<div> <div>長い</div> <div>: 日常的な活動(日常生活の一部)</div> <div>短い</div> <div>: イベント的な活動</div> </div>										
活動形態											
活動のきつかけと活動期間からみた主な活動内容											
課題	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="210 1740 252 1814">困ること</td> <td data-bbox="252 1740 529 1814"> <div>参加者</div> <div>参加者が増えない</div> <div>行政</div> <div>駐車場の確保</div> <td data-bbox="529 1740 691 1814"> <div>参加者が増えない</div> <div>駐車場の確保</div> </td> </td></tr> <tr> <td data-bbox="210 1814 252 1886">期待</td> <td data-bbox="252 1814 529 1886"> <div>参加者</div> <div>今のままで充分</div> <div>行政</div> <div>参加者の交流を参加者が主催</div> </td> <td data-bbox="529 1814 691 1886"> <div>来訪者のための支援</div> <div>参加者が拡大する</div> <div>組織を設け、発売に活動</div> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="210 1886 252 1951">改善意向</td> <td data-bbox="252 1886 529 1951"> <div>参加者</div> <div>参加者を拡大する</div> <div>オープンガーデン活動を宣伝し、PR</div> <div>行政</div> <div>参加者たちの交流活動を増やす</div> <div>参加者を拡大する</div> </td> <td data-bbox="529 1886 691 1951"> <div>参加者を拡大する</div> <div>オープンガーデン活動を宣伝し、PR</div> <div>参加者たちの交流活動を増やす</div> <div>参加者を拡大する</div> </td> </tr> </table>		困ること	<div>参加者</div> <div>参加者が増えない</div> <div>行政</div> <div>駐車場の確保</div> <td data-bbox="529 1740 691 1814"> <div>参加者が増えない</div> <div>駐車場の確保</div> </td>	<div>参加者が増えない</div> <div>駐車場の確保</div>	期待	<div>参加者</div> <div>今のままで充分</div> <div>行政</div> <div>参加者の交流を参加者が主催</div>	<div>来訪者のための支援</div> <div>参加者が拡大する</div> <div>組織を設け、発売に活動</div>	改善意向	<div>参加者</div> <div>参加者を拡大する</div> <div>オープンガーデン活動を宣伝し、PR</div> <div>行政</div> <div>参加者たちの交流活動を増やす</div> <div>参加者を拡大する</div>	<div>参加者を拡大する</div> <div>オープンガーデン活動を宣伝し、PR</div> <div>参加者たちの交流活動を増やす</div> <div>参加者を拡大する</div>
困ること	<div>参加者</div> <div>参加者が増えない</div> <div>行政</div> <div>駐車場の確保</div> <td data-bbox="529 1740 691 1814"> <div>参加者が増えない</div> <div>駐車場の確保</div> </td>	<div>参加者が増えない</div> <div>駐車場の確保</div>									
期待	<div>参加者</div> <div>今のままで充分</div> <div>行政</div> <div>参加者の交流を参加者が主催</div>	<div>来訪者のための支援</div> <div>参加者が拡大する</div> <div>組織を設け、発売に活動</div>									
改善意向	<div>参加者</div> <div>参加者を拡大する</div> <div>オープンガーデン活動を宣伝し、PR</div> <div>行政</div> <div>参加者たちの交流活動を増やす</div> <div>参加者を拡大する</div>	<div>参加者を拡大する</div> <div>オープンガーデン活動を宣伝し、PR</div> <div>参加者たちの交流活動を増やす</div> <div>参加者を拡大する</div>									

る場合もあるが、今まで蓄積されたノウハウや工夫の運営方法で自律性を維持しようとしており、ある程度定着しているといえる。

最後に、活動のきっかけや期間と関係なく、参加者たちは参加者を増やしたり、オープンガーデン活動の認知度向上への意識が高く活動への意欲が高い。また活動をしていく中で、参加者たちは自主的に活動をするようになっていく。これは、オープンガーデン活動の継続の可能性としてみる事ができる。

本研究は文部科学省科学研究費補助基盤研究(A)(課題番号 20240066 研究代表者鈴木雅和)の一部補助による。

注 1) 2007 年 5 月～6 月: 流山花恋人、深谷花仲間、坂戸オープンガーデン
注 2) これまでに活動を中止したり、活動の存在が不明なところは含まれていない。
注 3) 妻沼オープンガーデン、深谷花仲間 (2008.6.1)、中播磨花仲間 (2008.10.14)、豊岡オープンガーデンショー (2008.10.15)、三田グリーンネット (2008.10.16)、猪名川オープンガーデン (2008.10.17)、宝塚オープンガーデンの会、宝塚オープンガーデン (2008.10.18)、豊田オープンガーデン (2008.11.11)、中遠オープンガーデン (2008.11.12)、浜松オープンガーデン (2008.11.13)、伊豆オープンガーデン (2008.11.14)
注 4) 宝塚では宝塚山本ガーデンクリエイティブ株式会社が、三田では三田市都市施設整備管理公社が、豊田では(財)豊田市公園緑地協会が行政からの委託事業としてオープンガーデン活動を運営している。
注 5) イギリスの NGS(ナショナル・ガーデン・スキーム)のように、公開している庭の入園料として来訪者から募金し、その募金を医療国保や福祉団体、子どものためのチャリティ団体などへ寄付している。

- 1) 平田富士男、橘俊光、望月明：わが国におけるオープンガーデンの地域経済への波及効果量の把握に関する研究，ランドスケープ研究，Vol. 66, No. 5, pp779-782, 2003. 3
- 2) 朴恵恩、野中勝利：オープンガーデン活動の実態からみた展開と課題，都市計画報告集，No. 7, pp31-36, 2009. 4
- 3) 野中勝利：長野県小布施町におけるオープンガーデンの特徴と課題，ランドスケープ研究，Vol. 65, No. 5, pp805-808, 2002. 3
- 4) 野中勝利：日常的公開のオープンガーデンにおける観賞者の行動特性，都市計画論文集，No. 40-3, pp847-852, 2005. 10
- 5) 相田明、進士五十八：先駆的事例を通じた我が国におけるオープンガーデンの意義，東京農大農学集報，46(3), pp154-165, 2001. 12
- 6) 相田明、鈴木誠、進士五十八：英国ナショナル・ガーデン・スキームによるオープンガーデンの発祥と活動，ランドスケープ研究，Vol. 65, No. 5, pp393-396, 2002. 3
- 7) 岩朝英恵、上甫昭春：兵庫県三田市におけるオープンガーデンの活動と会員の意識・行動の変化に関する研究，ランドスケープ研究，Vol. 70, No. 5, pp657-662, 2007. 3
- 8) 三分一淳、湯沢昭、熊野稔：オープンガーデン実施者の開放性に関する意識構造の検討，ランドスケープ研究，Vol. 70, No. 5, pp391-396, 2007. 3

– 435 –